

司法試験合格体験談

既修 岡野 椋介

「敵を知り己を知る」

私が司法試験に向けて行った対策は、過去問を解いて「敵」を知り、その過程で自分に何が足りないかを分析して「己」を知り、その不足分を補う勉強をするというものです。

司法試験合格が目標である以上、その過去問を解いてどういう出題傾向にあるのかを知ることが、今後の勉強方針を定めるうえで当然必要であると思います。私の場合は、友人からの誘いもあり、ロースクールに入学した4月の後半から民法・刑法の過去問を解く自主ゼミを始め、ロースクール2年目の12月頃には平成18年度試験から平成29年度試験までの検討を終えました。過去問検討は、出題の趣旨・採点実感・成績上位者の再現答案を参考にして議論し合いました。

そして、過去問を解いていく中で自分の答案の弱点を知り、その弱点を克服する勉強が必要となります。自分の弱点の分析に関しては、自主ゼミや授業の提出課題などを通じて他人から自分の答案について意見をもらうとともに、自分の答案と他人の答案を比較してみることにより、自分の答案の特徴を知るようにしました。私の場合、時間内に答案を作成しきれないことが多かったのですが、その原因を分析し、答案構成を段落ごとの内容まできっちり決めることと、基本的事項の内容をいつでも引き出せるように整理しておくことを意識して勉強したことで時間内に答案をまとめられるようになっていきました。

本番における体調、緊張、体力、集中力も自分の特徴のひとつなので、それらも含めて本番の試験に向けて自分に足りない部分を補っていくことが大切だと思います。